

広島県鉄構工業会

新年会事業でセミナー開催

ファブや設計者ら60人参加

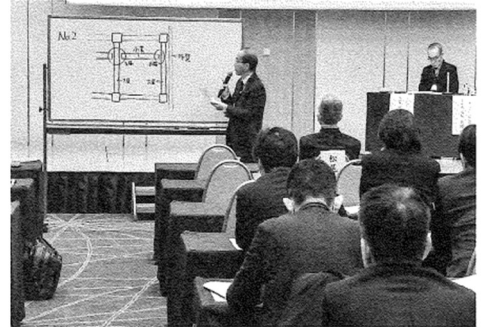
広島県鉄構工業会(理事長 山本泰徳・ステントス社長)は1月23日、広島市南区のホテルグランヴィア広島で新年互例会の特別事業として技術セミナーを開催。組合員のほか構造設計者や行政関係者ら約60人が参加した。

セミナーは組合員からの質問に日本建築構造技術者協会(略称・JSCA)中国支部の村瀬忠之支部長(建築構造支援研究所代表)と近松英樹副支部長(カナイ建築構造事務所)・畝博志技術委員長(竹中工務店設計部チーフエンジニア)が解説する形式で進行した。主な質疑内容は①小梁接合部のガセットプレートの取り付け②屋根ブレースの

学会などファブの加工現場を視察する事業も検討したい」と謝辞を述べた。

③アンクル使用時の注意事項
④使用部材の統一化
⑤母屋や胴縁のボルト径
⑥鋼材仕様の変更
⑦裏サイズ鋼材を明記する理由
⑧高力ボルトのサイズなど。

青年部会の光村圭介会長(ミツヤ工業常務)は「大変に有意義な交流ができた。今後は構造設計者の工場見



技術セミナーを開催

を重ね、その内容をもとに「鉄骨製作における疑問点と要望」をテーマとしたパ

ネルデイスカッションを昨年10月に開催するなど交流を続けている。



村瀬JSCA中国支部長